

創刊号

平成24年11月1日

事務局  
松本市丸の内3番7号  
松本市役所 広報国際課  
TEL: (0236) 34-3000  
FAX: (0263) 36-6839  
健康寿命延伸都市・松本



Makumoto International Exchange Committee

# Newsletter

## 会長挨拶

松本市長 菅谷 昭



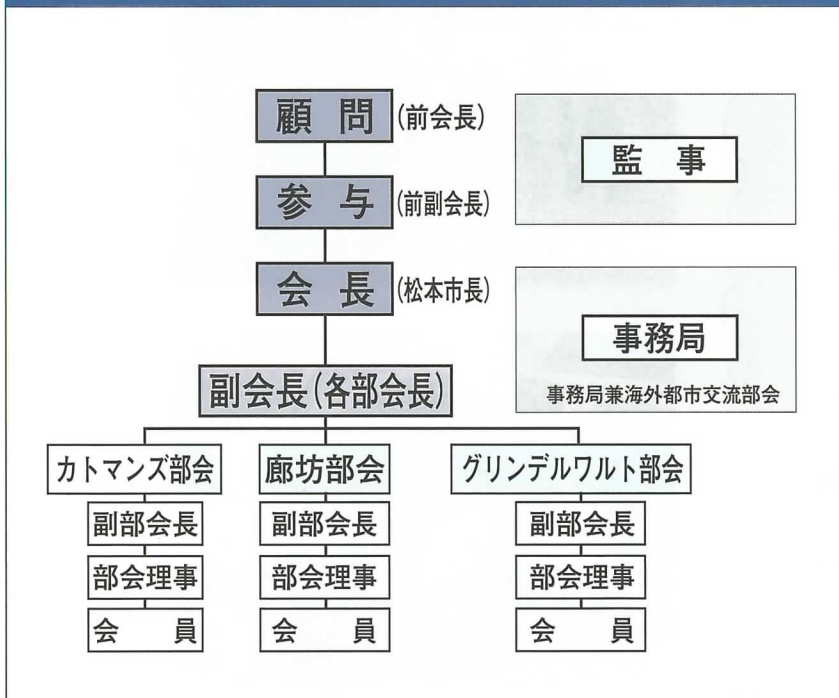
新組織の会長としてご承認をいただきました菅谷昭でございます。松本市の海外姉妹、友好都市、四都市のうち三都市の事務局を松本市が担当しておりますが、一つにまとまるということで、準備を進めてまいりました。会員の皆様のご理解とご協力を得まして新たなスタートを切る事ができ嬉しく思います。

各都市と姉妹提携を結んだ時期と、日本の国情、また相手都市の国情、経済情勢なども変化してきております。また、独自に外国の諸都市と民間レベルで、地道な交流を続けておられる市民団体もございます。姉妹都市とは今後も変らぬおつきあいをしていくことはもちろんでございますが、本年、松本市は「世界冬の都市市長会」に入会し、世界九カ国、十九の都市とのおつきあいが始まります。グローバルな視線に立ち、提携の有無に拘らず、幅広くお付き合いをしていくことも重要なことと考えております。

またロシアとの交流も一歩ずつではありますが、進展をしておりますし、今回は、新組織の発足に伴いましては、チェコ共和国、スメタナ・リトミシュル会、韓国・信州渡来人倶楽部などがお仲間に加わっていただきました。

地道に海外諸都市の市民と有益な交流をしている諸団体なども支援していただける組織とし、さまざまな幅広い交流を通じて、国際理解が深められ、さらには、三

## 松本市海外都市交流委員会組織図



ガク都・松本、健康寿命延伸都市・松本を世界にアピールしていければと考えております。

松本市の国際交流に御理解と多大なるお力添えを頂いております会員の皆様に御礼を申し上げ御挨拶と致します。

(設立総会あいさつより)

## 設立総会

4月23日に松本東急インの「オークルーム」を会場に設立総会を開催しました。当日の天気は生憎の雨でしたが、多くの会員の皆様にお集まり頂き、新たな組織の門出にふさわしい盛大な会

となりました。総会では事務局より、新組織、役員人事、本年度の事業計画等が示され、賛成多数で承認されました。また、新たに設置された海外都市交流部会に新たな団体会員をお迎えし、これまでの姉妹・友好都市の枠を超えた海外交流の実現に一歩近づきました。

総会後には同会場で懇親会が催され、新旧会員が大いに交流を温めました。

総会で承認された新役員は以下のとおりです。  
(敬称略、順不同、部会長まで)

【顧問】  
柿澤潔、野村二郎、松村好雄、神澤邦雄、相澤孝夫、有賀正、百瀬常雄、藤澤三千穂、小林銀一

【参与】  
井上保、百瀬康、伊藤茂、大久保秀樹、富永正道、小日向義夫

【会長】  
菅谷昭

【副会長】  
縣治男(カトマンズ部会長兼務)、林尚武(廊坊部会長兼務)、上條敏昭(グリーンデルワルト部会長兼務)



松本市海外都市交流委員会設立総会

グリンデルワルト村  
村長が来松しました



グリンデルワルト村の  
シュラッピー村長ほか4名

が5月19日～21日に来松しました。今回の来松は東京で開催された「Wアルプスの集い」への参加に合わせて計画されました。特急あずさで到着した一行は、大名町通りを散策した後、歓迎夕食会の会場となる第一会館へと向かいました。歓迎夕食会には松本市海外都市交流委員会会長の菅谷市長をはじめ、会員の皆さんも多く出席し、昨年度の公式訪問以来の再会を喜び、盛大な会となりました。

2日目は、信州松本空港より小型飛行機で上空から松本の街並みや安曇野の田園風景、アルプスの山並みを眺め、昼食は村長のかねてからの希望であった回転寿司を楽しみました。午後には諏訪湖で水陸両用車に乗車、松本城を観覧し、夕食会に出席、過去の訪問の際の思い出話や山の話で大いに盛り上がり、和気あいあいとした雰囲気の中、夜が

更けていきました。  
翌日、10月の中学生ホームステイ事業での再会を約



松本駅出迎え



村長セスナ機に搭乗

東し、電車で東京へと発ちました。

### 来松者

エマニエル・シュラッピー村長  
ペーター・エッカー観光局総監  
ブルーノ・ハウスヴィルト観光局長  
安東一郎 日本語観光案内所副所長  
安東康代 日本語観光案内所副所長

### 来松スケジュール

- 5月19日(土) 松本駅着、市内散策の後  
歓迎夕食会
- 20日(日) 松本・安曇野上空を遊覧飛行  
昼食に回転すしを体験  
諏訪湖にて水陸両用車に乗車  
松本城観覧
- 21日(月) 松本発

# グリンデルワルト村 中学生ホームステイ 事業



応募者126人の中から選ばれた松本市内中学生20名が、9月3日から8日の日程で、スイス・ベルン州グリンデルワルト村でのホームステイを体験しました。

松本から成田まで、バスで5時間。成田空港からチューリッヒまでのフライト時間は約12時間。長旅にもかかわらず、疲れた顔は見せず、ホテルでの夕食会では大はしゃぎでした。

2日目は世界遺産の街、ベルン観光、昼食後、在スイス日本国大使館を訪問しました。梅本特命全権大使が中学生20名を温かく迎えてくれ、外交官の仕事やスイスの歴史について、お話をいただきました。

をいただきました。2014年には、日本とスイス国交樹立150周年を迎えることから、長く姉妹都市交流を続けている松本市とグリンデルワルト村で、何か記念行事が出来れば、大使館でも協力をしますとお話くださいました。



在スイス日本大使館にて

3日目は村で一番大きなグラーパーベン校を訪問しました。授業を見学のあと、講堂で松本市の紹介を生徒がパート毎に英語で発表しました。十分に練習をしてこなかった生徒もいて、一部聞き取れなかったところがありました。



チューリッヒの街

ラーベン校の先生がフォローをしてくれました。ぼんぼんの披露では、二曲目に入ると、グラーパーベン校の生徒半数が加わり大いに盛り上がりました。

午後は、グローセシャイデックまでバスで行き、そこから約2時間のハイキングをおこないました。目的地のフィリストは、あいにく霧に包まれていました。ゴンドラでグリンデルワルトまで戻り、夕方、ホストファミリーが迎えに来るまでの間ショッピングを楽しみました。



クライネシャイデック駅

4日目は、ヨーロツパー長いといわれるゴンドラで、メンリツヒエンまで上がり、ハイキングでクライネシャイデック、そこから登山電車でユングフラウヨツホ観光を満喫しました。



グラーパーベン校

そして夜には、ホストファミリーとのさよなら夕食会。生徒たちは、積極的に、空手、柔道、バレエ、書道などの特技を披露しました。



さよならパーティー

短い滞在は瞬間に過ぎてしまいました。早朝8時、ホストファミリーやシュラツピー村長が見送りに出てくれました。ホストになっていたいただいた家族の子供も、授業に遅れる許可をもらって見送りに来てくれました。純朴で優しい人々に歓迎された旅でした。「帰りたくない」、「短すぎる」そんな生徒の囁きが聞かれました。参加した中学生の多くに



ユングフラウヨッホ



グリンデルワルト駅舎の壁に

とって初めての海外体験であり、それぞれがグリンデルワルト村での楽しい思い出を胸に秘めて、無事帰国の途につきました。

## 主な日程

(9月3日(月)～8日(土)、5泊6日)

- 第1日目 松本出発 チューリッヒ着
- 第2日目 ベルン観光・日本大使館訪問  
歓迎アペロ ホストファミリーと対面
- 第3日目 フィルストヘハイキング
- 第4日目 ユングフラウヨッホ、トップオブ  
ヨーロッパへ  
さよなら夕食会
- 第5日目 チューリッヒ発
- 第6日目 帰国

## スメタナ・リトミシユル会 がチェコ共和国を訪 問しました



4月の松本市海外都市交流委員会の発足から新たに会員に加わって頂きましたスメタナ・リトミシユル会が交流を温めているチェコ共和国、リトミシユル市を訪問しました。同会の会長

より訪問の様子を寄稿頂きました。

### チェコ共和国訪問紀行

スメタナ・リトミシユル会

会長 久保田 嘉信

チェコ共和国リトミシユル市と松本市との民間交流は、平成14年から毎年続き、今年で10年目になった。リトミシユル市はスメタナの誕生の地である。チェコ音楽の父、スメタナの生誕地リトミシユル市は東ボヘミアの美しい世界遺産の町である。毎年6月、チェコ・フィルハーモニーとプラハ国民劇場のオペラ歌手による「スメタナ・リトミシユル国際オペラ音楽祭」が20日に亘って世界遺産であるリトミシユル城のバルコニーで囲まれた中庭を利用して鑑賞仮設スタンドを造り、音楽劇場として演奏される。このコンサートにはプラハから大統領、首相も駆けつけ鑑賞している。

以前は、前安曇野市長であった平林伊三郎氏がリトミシユル市との政治・文化交流をしていた。

平成19年10月ジムナジウム高校の生徒(女子生徒3名と女性の先生1名)が東京と松本市を訪問したことが契機となって、松本市とリトミシユル市との国際民間交流を深め、平成20年に国際交流事業を実施するため、スメタナ・リトミシユル会として正式に発足し、平成22年6月団長として訪問団を結成し、松本市長菅谷昭氏の親書を携え、民間交流訪問団がリトミシユル市を親善訪問、リトミシユル市長主催晩餐会、オペラの鑑賞、と素晴らしいご招待を受けた。

平成24年4月、プラハにおいて毎年5月12日から開催されるプラハ国際音楽祭へ参加するためチェコを訪問し、12日はスメタナホールにおけるチェコフィルによる初日コンサートを鑑賞(指揮者バシリールペレンコ)、13日は国民劇場におけるオペラ「ルサルカ」、15日はスメタナホールにおけるウインフィルによるコンサート(指揮者ダニエルバレンボイム)、16日は、ドボジャークホールにおけるリサイタル(メゾソプラノマダレナコゼナ、ピアノ内田光子)の鑑賞をした。

その間14日にはリトミシユル市への再度の表敬訪問、リトミシユル城謁見の間でレセプションの招待を受け、菅谷市長からお預かりした親書の授与式、と記念品の贈呈、表敬の挨拶を行った後、晩餐会への招待を受け、民間国際交流を行っ

だが、更なるチェコと松本市との民間国際交流を図る事業を計画し実行したい。



リトミシュル市長と



市長主催の晩餐会



リトミシュル城

## 日中教育者 交流シンポジウム



「日中教育者交流シンポジウム」(松本日中友好協会主催、松本市教育委員会、松本市海外都市交流委員会共催)が7月21日(土)に松本市勤労者福祉センターで開催されました。

廊坊市から教育局、友好提携小中学校4校教員6名、葫蘆島市から、教育局、第二実験小学校教員6名の総勢12名をお迎えして盛大なシンポジウムとなりました。松本市からは友好提携小中学校の五校(開智小、並柳小、寿小、清水中、開成中)の教員が登壇し、市内の教育関係者、一般の市民、留学生等多数の聴講者が訪れました。

教育シンポジウムに先立って前日の20日(金)に

は学校訪問を廊坊市と葫蘆島市の2グループに分かれて行いました。廊坊市一行は清水中学校へ、葫蘆島市一行は開智小学校を訪問。お互いの教育現場の違い等について活発な意見交換を行いました。



学校訪問の様子

翌日のシンポジウムはスズキメソッドの演奏で訪問団の皆さんをお迎えし開幕、松本日中友好協会の相澤会長から歓迎の言葉をいただいた後、教育委員会の吉江教育長が松本市側を代表して挨拶をしました。

学校発表の後、中国側及び松本側出席者が登壇し、

互いの学校を紹介、教育の実情、教育現場での様々な問題点について意見の交換が活発に行われました。シンポジウムの講評で、松本市教育委員会指導室の小柳室長から「国は違っても教育の中に流れる変わらないものは同じだと感じた」とのコメントを頂きました。



日中教育者シンポジウム

## 日中友好都市中学生 卓球交歓大会



本年度は日中国交正常化

40周年を迎えることから、これを記念して8月19日から北京市において日中友好都市中学生卓球交歓大会が開催されました。松本市からは松本卓球連盟小岩井顧問を団長に、中原元気選手、柳沢菜歩選手、監督、コーチを含めて7名が派遣され、廊坊市の康李欽選手、郝博選手と協力して、見事ブロック優勝をおさめました



大会開会式



ブロック優勝後の記念撮影

ネパール音楽の夕べ  
「スンドリ・ミカ」 in 松本



9月25日(火)にあがたの森文化会館の講堂ホールにて、NPO法人 松本ヒマラヤ友好会の主催により「ネパール音楽の夕べ」が開催されました。コンサートにはネパール民謡歌手のスンドリ・ミカさんをお招きし、軽妙なトークと澄んだ歌声でネパールの文化を紹介、日本語と現地の言葉を交えて、ネパールの民謡を

楽しく、わかりやすく紹介して頂きました。



音楽の夕べ

「東日本の渡来文化  
海を渡ってきた金銅冠  
フォーラム」が開催  
されました



9月29日、30日の日程で「東日本の渡来文化―海を渡ってきた金銅冠 フォーラム」が浅間温泉文化センターを会場に開催されました。浅間温泉には5世紀の金銅製天冠が発掘された古

墳があり、その他類似した金銅冠が出土している4地域の研究者が登壇、韓国と日本の考古学研究の第一人者の韓国慶北大学の朴教授が講演をしました。

第23回 信濃の国  
楽市楽座に出展しました



10月20日(土)～21日(日)の2日間、松本市海外都市交流委員会では昨年に引き続き、楽市楽座へ出展をしました。昨年好評だった、ネパールカレーをメインに4姉妹都市を紹介するパネル等を展示、多数の方にお立ち寄り頂きました。

松本市廊坊市親善訪問  
団の中止について



10月17日から21日に予定

されていた交流委員会主催の親善訪問ですが、窓口となる廊坊市の外事弁公室より全国共産党大会の準備の関係で、対応ができないとの連絡があり中止となりました。

松本市  
海外姉妹・友好都市の紹介

ソルトレークシティ



1. 概要  
アメリカ合衆国の西部に位置するユタ州。その州都がソルトレークシティです。1847年に東部からやってきたモルモン教徒たちが開拓した町で、モルモン教の総本山、ソルトレーク大聖堂が町の中心となっています。町の西側には名前の由来となった湖、グレートソルトレーク(大塩湖)が広がり、その広さは約4,660km<sup>2</sup>、松本市(約978km<sup>2</sup>)がすっぽり入ってもまだまだ余裕があります。

## 2. 提携理由・交流の経緯

戦前よりソルトレークシティと関係が深かった故村山有氏（旧制松本中学卒）が両市を仲介し、戦後、姉妹提携運動が盛んになるにしたがって、両市の姉妹提携の機運も次第に高まり、提携に至りました。国内では13番目（長野県内の市町村では初）の海外姉妹都市提携となりました。

松本市とソルトレークシティの姉妹都市交流をもっとも盛り上げているのが毎夏に行っている国際生活スクールで、2012年に30回を数えるまでになりました。この国際生活スクールは現地での生きた英語を学べ、アメリカの大自然を体験し、そして自分たちとは違う文化圏の人々の生活に触れ合えるという魅力があります。また、2008年ウォーターフォード校の学生が松本に訪れ、松商学園で交流を行いました。

（都市データ）

人口…約18.2万人

面積…288km<sup>2</sup>

姉妹都市提携締結日

1958年11月29日

松本市ソルトレークシティ

姉妹提携委員会

（連絡先…松本商工会議所）



### カトマンズ市

#### 1. 概要



北はチベットと接するヒマラヤ山脈、南はインドへつながるタライ平原に挟まれた小さな国、ネパール。標高5,000mを越える

高地から亜熱帯の低地まで、変化に富んだ自然の中に昔から30以上の民族が暮らしています。カトマンズはそのネパールの首都です。宗教的にはヒンドゥー教と仏教が信仰の中心です。多文化都市カトマンズがあるカトマンズ盆地は1979年にユネスコの世界遺産として登録されました。またネパールといえばヒマラヤでのトレッキングが有名で、特にカトマンズは登山者たちで賑わっています。

#### 2. 提携理由・交流の経緯

1976（昭和51）年8月、

B. P. シュレスタ氏（当時の駐日大使）が来松した際、北アルプスを背景とした松本平の風景がカトマンズ盆地に似ており、岳都同士の縁を感じたことから、姉妹都市提携の打診がされました。その後、S. P. バタライ・カトマンズ市長と市議会代表等が来松し、姉妹提携実

現について要望されました。

こうした中で、松本市民の中にもアジア圏との海外姉妹都市提携を望む声が強く、アジアの都市との提携が全国的な傾向であったことから提携に至りました。10周年記念には松本市民の寄付金によってカトマンズ市に武道館が建てられました。

また、信明中学校は長年カトマンズのバンヌ・バクター校と交流を行っていています。このような若い世代の交流がいずれ両市の姉妹都市交流の主役を担い、ひいては日本とネパール両国の橋渡しになることでしょう。



（都市データ）

人口…約67.1万人

面積…50.67km<sup>2</sup>

姉妹都市提携締結日

1989年11月17日

### 廊坊市

#### 1. 概要



中国の東部、首都北京を囲むように河北省は位置しています。黄河の北にあることから「河北」と付けられたこの省に廊坊市はあります。廊坊市は北京と天津という広大な中国の中でも五指に入る大都市の間に位置し、アクセスが便利なので、日系企業も多数進出しています。石油や石炭、天然ガスなどの鉱物資源が豊富に産出されている場所でもあります。廊坊市はその立地の良さ、豊富な資源を持つていることから著しい発展を遂げている町です。

## 2. 提携理由・交流の経緯

松本市と廊坊市の友好都市提携は、松本市が市議会との合同調査団を派遣したことに始まります。調査団は中国のいくつかの都市から友好都市提携の可能性を調査し、その中から長野県と友好県・省の関係にある河北省の廊坊市を選定、この結果を受けて、松本市は廊坊市と友好都市提携を実施しました。松本市と廊坊市の間柄を「姉妹都市」ではなく「友好都市」と呼ぶのは、中国で「姉妹」は上下関係も意味してしまうので、対等な関係であること強調するため「友好」という言葉を使っています。

提携後は、松本市から廊坊市へ平成7年から2年ごとに、訪問団を派遣しています。廊坊市からも平成8年から2年ごとに、訪問団が松本を訪問しています。

(都市データ)

人口…約395.7万人

面積…6,429km<sup>2</sup>

友好都市提携締結日

1995年3月21日



### グリンデルワルト村

#### 1. 概要



中央ヨーロッパに位置するスイス。ドイツやフランス、イタリアなどに囲まれた内陸国で永世中立国として認められています。そしてそのスイスといえばアルプス。グリンデルワルト村はアイガー（標高…3,970m）の麓にあ

る小さな村です。アイガーの隣にはメンヒ（4,099m）、ユングフラウ（4,158m）が連なっています。グリンデルワルト村はベルン州の南、ベルナー・オーバーラント（ベルン高地）地方に属し、アルプスの山々と高山植物が咲き乱れる美しい景色に魅かれて多くの観光客が訪れ、また世界中からやってくる登山家たちの玄関口にもなっており、日本人観光客にも人気がある観光地です。

#### 2. 提携理由・交流の経緯

冬季札幌オリンピックの際、スイスのノルディック種目の監督として来日したローランド・ルーディン氏（グリンデルワルト村のリフト会社社長の意向を受けた当時の日本交通公社（現・JTB）副社長 兼松学氏の仲介が縁で安曇村が紹介され、共に雄大なアルプスを抱えており、山岳観光とスキートの自治体であることから提携に至りました。

2005（平成17）年に松本市と安曇村が合併した際に、新松本市とグリンデルワルト村双方の姉妹提携継続の意向を確認し、引き続き交流を行っています。

松本市とグリンデルワルト村の交流はまだ日が浅いですが、旧安曇村が積み重ねてきた友好を引き継いで良好な関係を保っています。

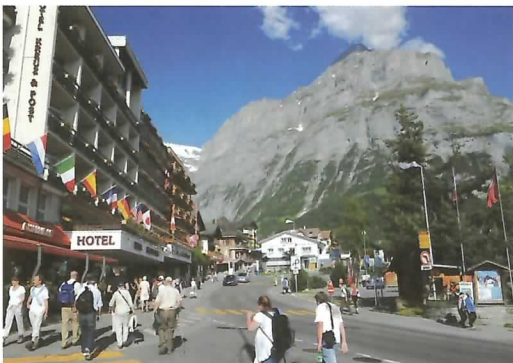
(都市データ)

人口…約3,800人

面積…171km<sup>2</sup>

姉妹都市提携締結日

2005年5月16日



## 事務局より

### 1. 会費納入のお願い

海外都市交流委員会は会員の皆さんの会費で運営されています。今年度の会費のお支払いがお済みでない方は、お早めにお問い合わせをお願いします。

### 2. 新規会員募集中!

松本市海外都市交流委員会では入会を希望される方を募集しています。既に国際交流をされている個人・団体はもちろん、国際交流に関心をお持ちの方も歓迎致します。年会費は、個人2千円、団体1万円。お申し込みは事務局まで。